

一九九一年度村落社会研究会総会

日時 一九九一年十月十日

場所 長野県木曾郡楡川村福祉会館

議事

一 議長に服部治則会員を選出した。

二 一九九一年度事務局報告

1. 一九九一年度事業報告

① 運営委員会の開催

第一回運営委員会 一九九〇年十月十一日

第二回運営委員会 一九九〇年十一月十七日

第三回運営委員会 一九九一年二月九日

第四回運営委員会 一九九一年五月二十五日

第五回運営委員会 一九九一年七月十三日

第六回運営委員会 一九九一年十月十日

② 「研究通信」の発行

一六三号 一九九一年一月二十日 二〇頁

一六四号 一九九一年五月十日 二八頁

一六五号 一九九一年七月十日 四二頁

特別号 一九九一年七月十日 二二頁

一六六号 一九九一年九月三十日 五〇頁

例年より頁数がかなり増えた。これは、研究会と報告者の数が増加したことと、外国見聞記・農村調査記や書評を掲載し誌面の拡充を図ったことによる。

2. 共通課題および研究会開催について

一九九一年度の共通課題は、第四回運営委員会において「日本農業・農村研究の課題を求めて」と決定された。その後、宿題委員会によって、「日本農業・農村研究の課題を求めて——家族経営危機の国際比較・環境問題・農業危機・集落機能の接点としての家族経営危機——」と具体化され、第五回運営委員会で最終的に決定された。この決定まで宿題委員会と研究会は以下のように開催された

① 宿題委員会の開催

中部・近畿地区宿題委員の集り 一九九一年六月八日

第二回宿題委員会 一九九一年七月十三日

② 研究会の開催

第一回研究回（一九九一年二月九日 中大会館）

五味絃一「一九九〇年世界農林業センサスの概要」

関東・東京地区第一回研究会（一九九一年四月二十日 中大会館）

大須眞治「十年間における農家の変動」

中部・近畿地区第一回研究会（一九九一年四月二十日 同志社大学）

辻井博「国際比較から見た日本農業の危機」

中田実「農村と環境問題」

東北地区研究会（一九九一年四月二十七日 東北大学）

松岡昌則「村落の段階規定と生活互助」

中部・近畿地区第二回研究会（一九九一年五月十一日 信山女学院大学）

河村能夫「アメリカ合衆国における農業発展と農村社会の福祉」

北原淳「タイ農村における共同体復興運動の背景とその輪郭」

関東・東京地区第二回研究会（一九九一年五月二十五日 明治大学）

蓮見首彦「現代資本主義と農村の変動」

第二回研究会（一九九一年七月十三日 同志社大学）

「イエ・ムラ理論」の現代的総括

光吉利之「農民家族の変動―覚え書―」

松本通晴「現代村落研究の展開―覚え書―」

3. 会員アンケートの実施

共通課題設定のため、会員のアンケート調査を行なった。

一〇一名の会員から回答が得られ、共通課題を決定し、あるいは村落社会研究会を運営する上で重要な意見が寄せられた。それらの意見は「研究通信」特別号として公表した。

4. 会員動向について

入会 十一名

退会 六名

現在会員三三六名（個人三三三、機関四）

5. 会計報告

①一九九一年度決算報告

別掲の通り承認された。

②一九九一年度会計監査報告

会計監査の吉沢四郎会員より、「監査の結果、収入、支出とも正常に執行されており、異常なし」との報告が行なわれ、これを承認した。

6. 一九九二年度事業計画

①九二年度事務局当番校を、関西学院大学（鳥越皓之会員）が担当することが承認された。

②大会事務局当番校

九二年度（第四〇回）大会当番校を熊本女子大学（米沢和彦会員）が担当することが承認され、同会員より、「来年度は、日本社会学会の日程にあわせ、十月下旬、熊本県島原で開催する予定である」との報告があった。

③一九九二年度予算について

別掲の通り承認された。

7. 年報編集委員会報告

長谷川昭彦会員より、年報第二七集「転換期農村の主体形成」が刊行されたこと、および第二八集の自由論題原稿募集に関する報告があった。

8. 第八回国際農村社会学会大会について

高橋善明会員より、第八回国際農村社会学会大会の取組みの現状について報告があった。詳細は、前掲一九九一年度第六回運営委員会報告事項および本「通信」一六頁以降を参照。